

Web 公開中の伝統芸能興行データベースを使用した  
演目別上演回数の比較手法について  
A Comparison of the Number of Times of the Performance  
Using the Traditional-Performing-Arts Database  
Exhibited on the Web

坂部 裕美子

Yumiko Sakabe

立命館大学 文学研究科博士後期課程, 京都市北区等持院北町 56-1  
Ritsumeikan University, 56-1 Tojiin-kitamachi, Kita-ku, Kyoto-city, Kyoto

あらまし: 現在 Web 公開されている最も充実した歌舞伎公演データベースを使用して「歌舞伎の演目別上演回数」を集計する際には、まず歌舞伎公演以外の公演の除外、演目の名寄せ等の処理が必要である。それらの処理を済ませて集計を行うと、「仮名手本忠臣蔵」が回数1位となる。だが、1幕1レコードという現行収録形式のまま度数集計を行った場合と、各幕に重みづけを行った上で集計した場合では、上位演目は若干異ってくる。Web 公開されている別のデータベースを使用して、文楽についても同様に演目別上演回数を集計し結果を比較すると、歌舞伎の場合以上に上位演目が変わる。歌舞伎も文楽も、重みづけをした上で行った集計結果の方が実感に近いという印象はあるが、どちらの方法も誤りとは言えず、「回数上位演目」の定義としてどちらを取るのが望ましいかという判断は今後の研究課題である。

**Summary:** When totaling "the number of times classified by program of Kabuki of performance" using the most substantial Kabuki performance database exhibited on the web, the exclusion of performances other than a Kabuki performance and the identification-of-multiple-accounts-under-the-same-name-as-a-single-entity processing of a program are required first. After the processing, it is found that "Kanadehon-Chushingura" ranks 1st in the total. But other higher rank programs are different by the ground total of the present form(one curtain is treated as one record), and weight attachment total(weight is attached to each curtain). When totaling the number of times classified by program of performance about Bunraku by the two same methods as Kabuki using the performance database exhibited on the web, and comparing the results, higher rank programs changes more than Kabuki. It seems that the result of weight attachment total is closer to feelings more than that of ground total in both case of Kabuki and Bunraku. Neither of the methods is errors, and the judgment which is desirable as a definition of the "higher rank program" is a future research task.

キーワード: 歌舞伎, 文楽, データベース, 度数集計, 重みづけ

Keywords: kabuki, bunraku, database, frequency total, weighting

## 1. 日本俳優協会版 DB を使用した歌舞伎興行集計

### (1) データについて

筆者は主に、伝統芸能の興行データベースを集計した結果を使用して、興行の特徴や長期的推移を把握する、という研究を行っている。特に歌舞伎興行に

については、現在日本俳優協会が Web 上で無料公開している「歌舞伎公演データベース—戦後から現代まで<sup>1</sup>」の制作に協力した経緯もあり、研究の中心的存在の一つとなっている。

<sup>1</sup> <http://www.kabuki.ne.jp/kouendb/>

このデータベースの網羅期間は、戦後すぐの1945年から「現時点で興行開催が決定している公演」まで(2013年11月時点で、2014年1月興行のデータが掲載されている)と幅広く、収録対象とする公演もかなり広範囲に及んでいる。データベースの「歌舞伎公演の範囲」には、以下のように説明が記載されている。

1. このデータベースでは、厳密な意味の“歌舞伎公演”のみならず、歌舞伎俳優が出演した商業演劇やミュージカル、現代演劇などの公演記録も掲載している。ただし「東宝歌舞伎」「東映歌舞伎」については、歌舞伎俳優が出演した公演のみを掲載した。なお、新派公演は今回は除外した。
2. 短期間の「研究公演」「試演会」「勉強会」「研修発表会」などは残念ながら調査が及ばなかった(「荅会」など、一部入れたものもある)。

## (2)「歌舞伎公演」以外の公演の除外

もともとこのデータベースを作成した組織が「日本俳優協会」という主として歌舞伎俳優で構成された業界団体であり、例えばある歌舞伎俳優の生涯舞台活動を調べたい、というような場合には、この、内容の非常に充実したデータベースは相応に利用価値が高いと考えられる。

だが、このデータベースの収録内容を精査してみると、「歌舞伎興行の集計」を行う、という目的でここに収録された全データを使用することが適切といえるのか、疑問に感じるようになった。「歌舞伎公演」と見なすのには違和感が大きい公演データが相当数に上るのである。

「歌舞伎公演」の定義については大いに議論の余地があるのだが、ここでは取り急ぎ「違和感が大きい公演」を定義し、これらを除外することにした。

除外公演の判別ルールは以下のとおりとした。

1. まず、配役データの最初と2番目に記載されている俳優を別途リスト化し、いずれかが「歌舞伎俳優」(＝俳優協会所属で、新派でない人)でないものを抜き出す。配役不明の場合はここでの処理対象としない(積極的に除外しない)。

ここでは、前進座の俳優と、萬屋錦之介、大川橋蔵、市川雷蔵は「歌舞伎俳優でない人」とする(橋蔵・雷蔵は純然たる歌舞伎公演に歌舞伎俳優として出演した記録もあるが、配役の最初に挙げられるような俳優になるのは歌舞伎界を去った後のことであるため)。

2. 1.該当データのうち、以下に該当するものは「歌舞伎」扱いに戻す。

・総出演者、もしくは主な役の半分を超える人数が歌舞伎俳優である演目

・上記の判断が難しい「歌舞伎(舞踊)演目」で、複数の出演者のうち主たる踊り手である1人だけが歌舞伎俳優でないもの(橋蔵の「鏡獅子」など。ただし、非歌舞伎俳優が女優と組んで踊る道行ものなどは戻さない)

・歌舞伎の見方に関する解説で、出演者が歌舞伎俳優でないもの

3. 2.の処理後に残ったデータに「歌舞伎ではない」というフラグを付ける。

当初、公演データは12300件余りあった<sup>2</sup>が、このルールで処理を行った結果、(3)段階で930件余りのデータが除外対象になった。ちなみに、ここで除外対象となった公演を再チェックしたところ、スーパー歌舞伎は「リュウオー」だけが除外される(2番目の記載者が京劇俳優)、近年の公演では「赤い城 黒い砂」は歌舞伎扱いで残る(配役データの最初の2人だけが歌舞伎俳優)などが確認されるなど、除外ルールの機能不順もあった。だが、格上の役者の配役は「兵卒」「捕手」なども含めた配役一覧の最後に記載されることもあり、何番目までをチェックすれば条件に合う俳優を「合理的に」検出できるかは事前には推測できないため、当面はこの処理済みデータを使用して集計を行うことにした。

## (3)上演演目の名寄せ

上演演目別の上演回数を集計するには、「演目名」変数を度数集計すればよいのだが、このデータはこのままでは使えない。それは以下の理由による。

### 1. 演目の表記の違い

データ集計を行うと、新字・旧字の違いで表記の異なる演目は別データとして計上されるので、これらを合算しなければならない(俳優協会DBは「筋書の表記に準拠」が基本なので、元データ中には、例えば「假名手本忠臣蔵」というデータも存在する)。さらに、「加賀見山旧錦絵」(かがみやまきぎょうのにしきえ)という演目は、「鏡山旧錦絵」と表して上演することもある。このような演目の名寄せ作業も必要である。

### 2. 別表記同演目の名寄せ

次に、歌舞伎独自の問題として、全く別の演目名が

<sup>2</sup> 先述のとおり現在Web公開されているデータベースには最新年次まで収録されているが、筆者が本報告で集計に使用したデータは2010年の興行までを対象としている。

付いていても、内容は同一の演目である、という場合がある(「弁天小僧(弁天娘女男白浪)」「十六夜清心」など)。さらに、いわゆる「助六」は、誰が主役の花川戸助六を演じるかで演目名が全く変わる、という約束がある。これらも合算しなければならない。

### 3. 「口上」の合算

演目名「口上」として記録されているもののデータ数は61回だが、実はこのほかに「襲名披露口上」「追善口上」「初舞台披露口上」という演目名でも数多くの計上がある。今回のようなテーマの集計においては、これらをすべて別データとして計上するよりも、すべて合算するのが望ましい。

これらの問題には、各演目に集計用のユニークコードを別途設定し、「演目名」変数の内容をコード番号に変換してから集計する、という処理で対処した。

### (4) 集計結果

ここまでの処理を経て集計された、歌舞伎興行における上演回数上位演目は表1のとおりである。なお、本論中では、「その舞台の実際の上演回数(=役者が役を演じた回数)」ではなく、「ある劇場のある月の公演演目として掲げられた頻度」を集計対象としていることに留意されたい。

表1 演目別度数集計・歌舞伎(単純集計)

演目名	データ数	構成比(%)
1 仮名手本忠臣蔵	674	5.10
2 義経千本桜	383	2.90
3 菅原伝授手習鑑	256	1.94
4 口上	200	1.51
5 勘進帳	187	1.42
6 京鹿子娘道成寺(「二人道成寺」含む)	162	1.23
7 春興鏡獅子	123	0.93
8 藤娘	114	0.86
9 天衣紛上野初花(「直侍」も含む)	113	0.86
10 青砥稿花紅彩圖	113	0.86
11 恋飛脚大和往来	112	0.85
12 一谷嫩軍記	111	0.84
13 妹背山婦女庭訓	108	0.82
14 元禄忠臣蔵	101	0.76
15 双蝶々曲輪日記	97	0.73
16 鬼一洗眼三筋巻(「一條大藏隠」含む)	93	0.70
17 連獅子	90	0.68
18 伽羅先代萩	85	0.64
19 春夏秋冬	85	0.64
20 梶原平三菅石切	83	0.63

## 2. 集計方法の改良

### (1) データ構造に関する問題点

俳優協会版DBは、原則として1幕1レコードの形式になっており、例えばある月に忠臣蔵の通し上演が行われると、「忠臣蔵」の上演データが8~11レコード増える、という構造になっている。歌舞伎座には「一幕見」

という制度もあるほど「幕」という構成単位は認知が高く、このデータ構造自体に問題はない。しかし、歌舞伎興行は「1ヶ月=1興行」と認識されるのが通例であるが、このデータ収録形式では、これまでに何興行開催されてきたのか、全く推測できない。

また、収録形式に関しては、別の問題も存在する。「ヤマトタケル」など近年の新作歌舞伎のデータは、「幕」単位の区分ではなく、公演全体が1レコードとして収録されている(現在Web公開中のデータで「昼夜同一公演」と記載のある公演にこの形式が多い)。この場合の1レコードと、「お祭り」などの舞踊の1レコードを同値に扱うのは、鑑賞者としての直感に合致しない集計、という印象がある。

### (2) 簡易な「重み」づけ集計

この問題に正面から対応する方策としては、幕ごとの上演時間を入手し、その長さに合わせて重みをそれぞれの公演データに設定してから集計する、という手法が考えられる。だが、その作業ボリュームは膨大なものになる。

そこでより簡易な方法として、ある劇場の1ヶ月の上演分合計が「1」となるような、上演幕数に応じた重みを考える。(とりえず、重みは全幕等分とする。)つまり、忠臣蔵が通し公演で8幕上演された場合、各幕を「0.125」分として扱うのである。また、先述の「公演全体が1レコード」となる公演は「1/1」で1扱いとなる。

「同一劇場・同一年月の公演データの数を数えて、1をその数で割った値を各幕データに付与する」というマクロプログラムを作成して「重み」を算出した後、「重み付き上演回数」を再集計した。

### (3) 集計結果

その結果を表2に示す。

表2 演目別度数集計・歌舞伎(重み付き集計)

演目名	データ数	構成比(%)
1 仮名手本忠臣蔵	94.82	3.94
2 義経千本桜	70.22	3.29
3 勘進帳	37.71	1.57
4 京鹿子娘道成寺(「二人道成寺」含む)	33.60	1.40
5 菅原伝授手習鑑	30.91	1.29
6 春興鏡獅子	29.82	1.23
7 口上	28.47	1.18
8 青砥稿花紅彩圖	27.80	1.16
9 恋飛脚大和往来	26.83	1.12
10 天衣紛上野初花(「直侍」も含む)	24.66	1.03
11 ヤマトタケル	23.11	0.96
12 藤娘	21.38	0.89
13 与話情浮名権掬	20.15	0.84
14 連獅子	18.12	0.75
15 夏祭温花鑑	17.09	0.71
16 身替座禪	16.72	0.70
17 元禄忠臣蔵	16.37	0.68
18 助六由縁江戸桜	16.26	0.68
19 傾城返魂香	15.88	0.66
20 お祭り	15.82	0.66

表1と一部の演目の順位が入れ替わっていること、それでも回数第1位は仮名手本忠臣蔵であること、そして、その「忠臣蔵」の構成比が若干下がっていることなどが注目される。

そして、この集計においてもう1つ有益なのが、この集計で算出された「データ数」の合計が、「興行数」と一致することである。

ただし、この時点での総興行数(総興行月数)には、先述の「歌舞伎公演ではない公演」の開催分も含まれている。より正確に「歌舞伎の興行月数」を算出するために、「同劇場・同月の公演についてそれぞれ『総演目数』と『歌舞伎ではない演目数』の合計を算出し、『歌舞伎ではない演目』が全体の6割以上を占める公演は除外する」という処理を追加すると、本データ中には2360興行分のデータが収録されていたことが分かる。

### 3. 国立劇場版 DB を使用した文楽興行の集計

#### (1) データについて

現在 Web 上で無料公開されている伝統芸能興行データベースには、俳優協会版 DB 以外に、国立劇場による「文化デジタルライブラリー」内の興行データ<sup>3</sup>もある。特に文楽は、国立劇場・国立文楽劇場の公演がほぼ国内の全公演であるため、この DB 収録データを使用して、歌舞伎と同様の「単純集計」と「重み付き集計」を行ってみる。

#### (2) 単純集計

「文化デジタルライブラリー」データには、朝日座興行と、国立劇場・国立文楽劇場における全公演が収録されているが、集計対象はそのうち定期公演、若手会、鑑賞教室のみとした。

単純集計結果を表3に、1興行につき合計1となるように各演目に重みづけをした集計結果を表4に示す。いずれも回数上位20位までを示している。

単純集計では「解説」とつく演目(文楽鑑賞教室における定例演目)が上位に入っているが、重みづけ集計をすると、実際に通し上演等で鑑賞する機会が多いという実感のある演目が上位に来る。

また、全体の印象として、歌舞伎の場合より上位演目の入れ替わりが激しい。

### 4. 「回数上位演目」の定義についての考察

<sup>3</sup> <http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/plays/> ちなみに俳優協会版 DB には国立劇場公演・歌舞伎鑑賞教室は収録されているが、若手の勉強会は収録されていない。

表3 演目別度数集計・文楽(単純集計)

タイトル	度数	パーセント
1 解説 文楽について	40	2.87
2 新編 徳太夫節について・人形の違い方	37	2.47
2 新編 文楽/文楽の発光/舞台裏の若者たち	37	2.47
4 曾根崎伝平書生	33	2.20
4 藤屋千本蔵	33	2.20
6 引退・假名付口上、通口上	32	2.13
7 曾根崎心中	30	2.00
8 新編 徳太夫	27	1.80
8 仮名千本蔵	27	1.80
10 藤屋千本蔵	23	1.53
10 新編 三浦屋	23	1.53
12 桂本太夫節	22	1.47
12 新編 女舞衣	22	1.47
12 一巻 半巻	22	1.47
15 新編 曾根崎	21	1.40
15 真流の演目	21	1.40
16 不登 前中	21	1.40
15 伊賀越中源次	21	1.40
16 藤屋合組	20	1.33
19 桂川 通口	20	1.33
19 藤屋合組	20	1.33
19 新編 藤屋	20	1.33

表4 演目別度数集計・文楽(重み付き集計)

タイトル	度数	パーセント
1 仮名千本蔵	17.50	3.97
2 藤屋千本蔵	16.72	3.77
3 藤屋千本蔵	16.18	3.65
4 曾根崎伝平書生	15.73	3.55
5 新編 徳太夫	11.45	2.59
6 本居 四半	11.29	2.53
7 藤屋合組	10.14	2.29
8 桂川 通口	9.87	2.18
9 曾根崎心中	9.25	2.11
10 伊賀越中源次	8.43	1.90
11 真流の演目	8.13	1.84
12 生写 藤屋	8.02	1.81
13 新編 徳太夫節について・人形の違い方	7.47	1.70
14 心中 天来島	7.22	1.63
15 新編 女舞衣	7.00	1.60
16 新編 河津の正引	6.33	1.43
17 桂本太夫節	5.80	1.33
18 心中 前中	5.47	1.32
19 新編 文楽のたのしみ	5.43	1.32
20 千本蔵	5.72	1.29

ここまで、公演回数データの集計時の「重み」の使用について考察するべく、歌舞伎と文楽の実際の興行データを使用して、演目別上演回数集計を行ってみた。どちらも集計方法として選択できるのだが、文楽では両方の結果にかなり大きな差が出たこともあり、この問題は看過できないと感じている。

伝統芸能興行についてのデータ解析研究が進んでいないこともあり、例えば初心者に説明する場合にどちらの結果を「上演回数上位」とする方が望ましいのか、現時点では筆者は結論を出せずにいる。今後の研究の進展により、何らかの判断の指針が発見されることを望んでいる。